

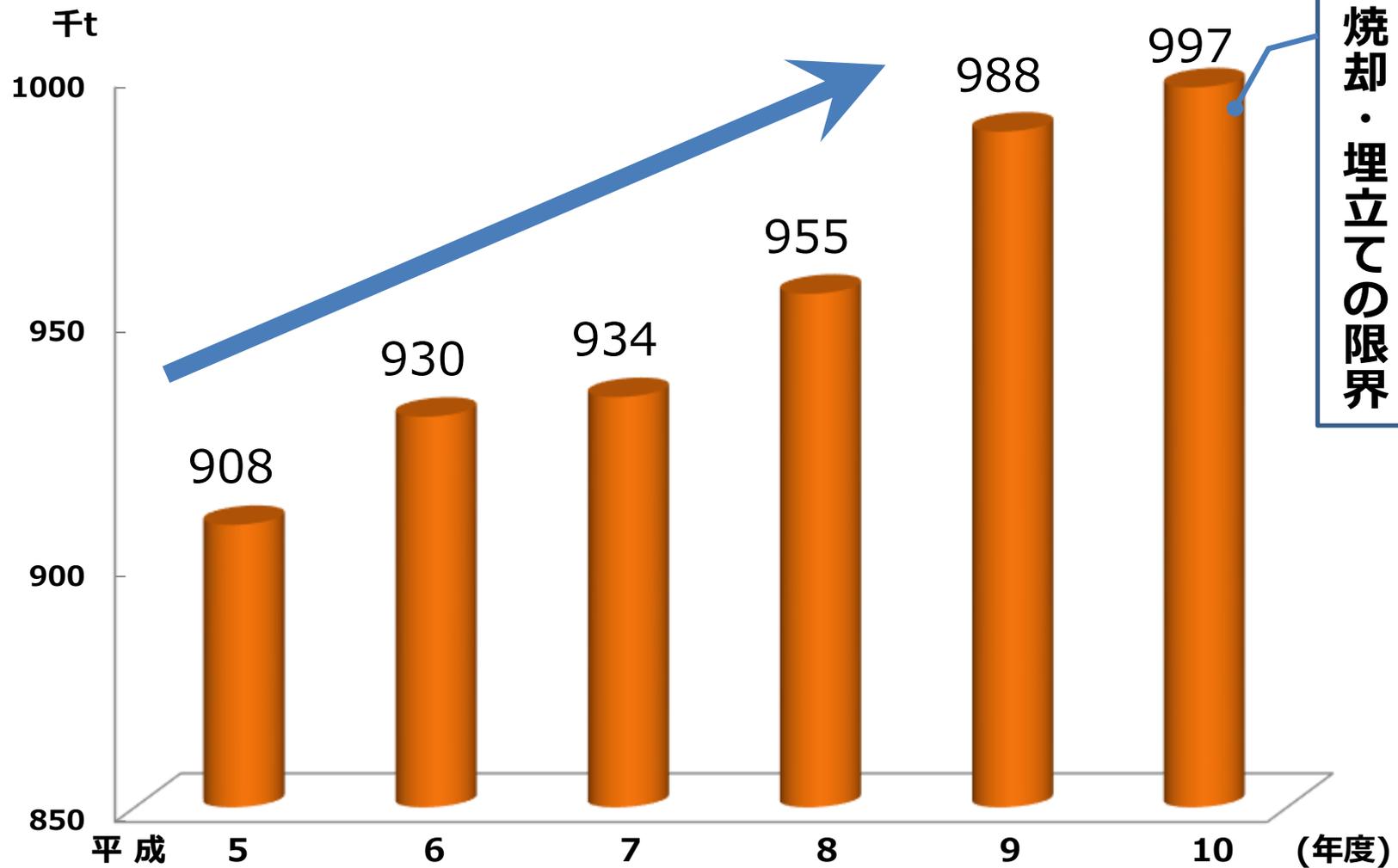
名古屋市の ごみ減量施策について



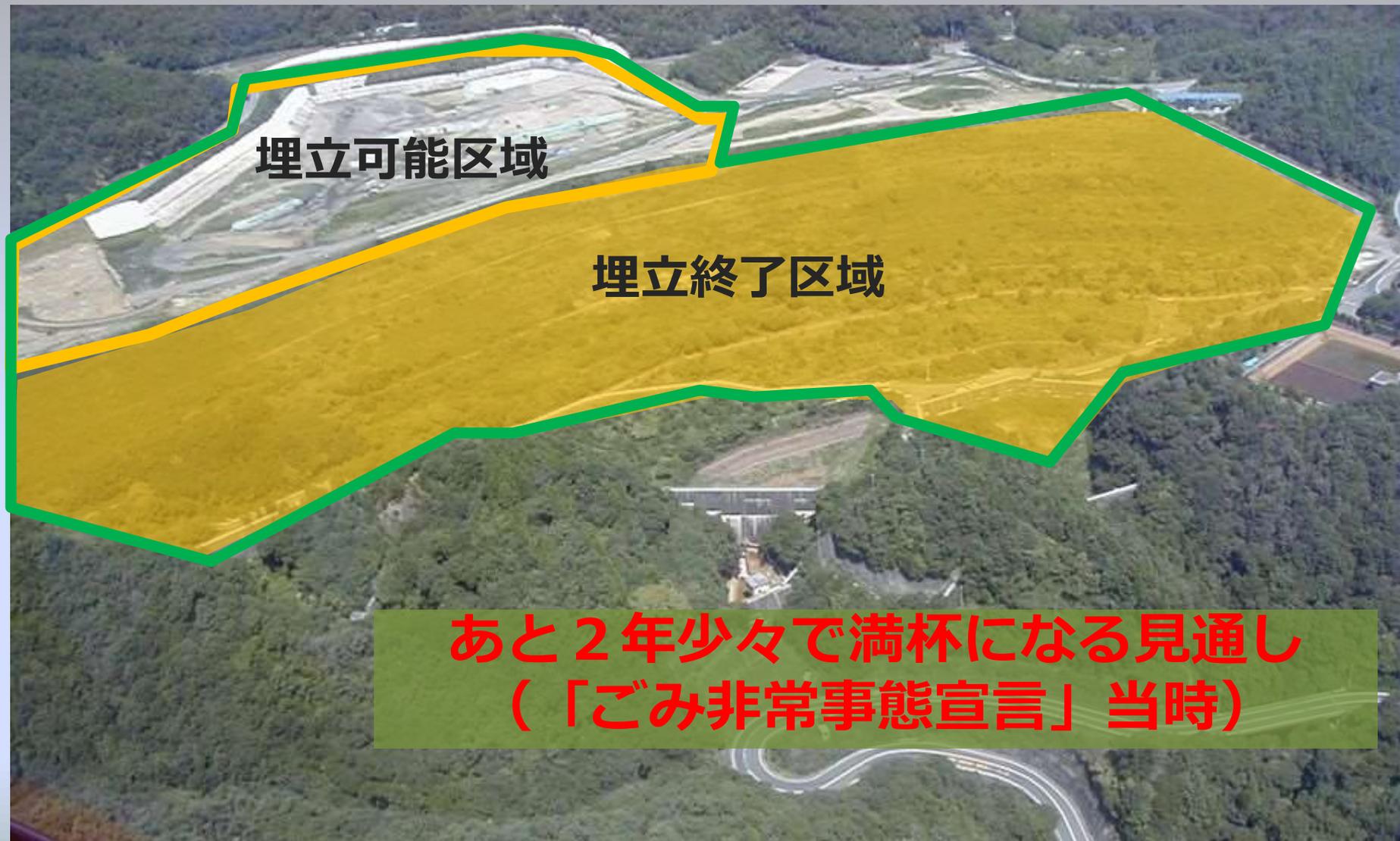
名古屋市 環境局
ごみ減量部 減量推進室
主査 三輪 琢也

名古屋市
循環型社会イメージキャラクター
シャチの「ジュンちゃん」

増え続けていたごみ処理量



「愛岐処分場」 (岐阜県多治見市)



「藤前干潟」と埋立計画区域

藤前干潟の埋立断念



名古屋市の「藤前干潟」埋め立て断念。代替地協議に全力。国と代

藤前埋め立て断念

渡り鳥 飛来地 干潟の保全確定

名古屋市の「藤前干潟」埋め立て断念。代替地協議に全力。国と代

名古屋市の代替地探し専念

藤前処分場計画を断念

代替地協議に全力



「ごみ非常事態宣言」 発令

- 平成11年2月 「**ごみ非常事態宣言**」
 - あと2年少々で愛岐処分場が満杯になる見通し
 - 焼却工場の処理能力の限界（オーバーフロー）
 - 課題は新たな処分場の確保、徹底的なごみ減量
 - **市民・事業者・行政の協働の取り組みが必要**



- **ごみ減量目標 ⇒ トリプル20**
 - 20世紀中に20%、20万トンのごみ減量目標

主なごみ減量対策（平成11～12年）

＜家庭系＞

平成11年度

○空きびん・空き缶収集の拡大(9→16区)

○**家庭ごみ指定袋制の導入**

平成12年度

○コンテナボックスによるごみ収集の廃止

○**市民自主回収（集団回収・リサイクルステーション）への助成強化及び学区回収方式開始**

○**紙製容器包装・プラスチック製容器包装、ペットボトルの分別・ステーション収集開始**

＜事業系＞

平成11年度

○事業系古紙・空きびん・缶の搬入禁止

○産業廃棄物の受入全面中止

○**事業系ごみ指定袋制の導入**

平成12年度

○事業系ごみ**全量有料化**実施に伴うごみ処理手数料の改正

○事業系ペットボトル、発泡スチロールの搬入禁止

新資源収集開始に伴う 市民への広報・啓発(平成12年度)

事前周知と説明会

- ・「広報なごや」の配布(3・4・6・8月号)
- ・地域説明会を約**2,300回**実施(6・7月)
→ 約21万人の市民が参加



名古屋の熱い夏が始まりました

広報の方法・媒体

- ・広報なごや、パンフレット、ポスター等
- ・説明ビデオ、新聞広告、テレビ・ラジオCM、
テレビ・ラジオ市政番組、広報誌掲載、
映画館でのニュース、地下鉄・市バスへの
ポスター掲示、等



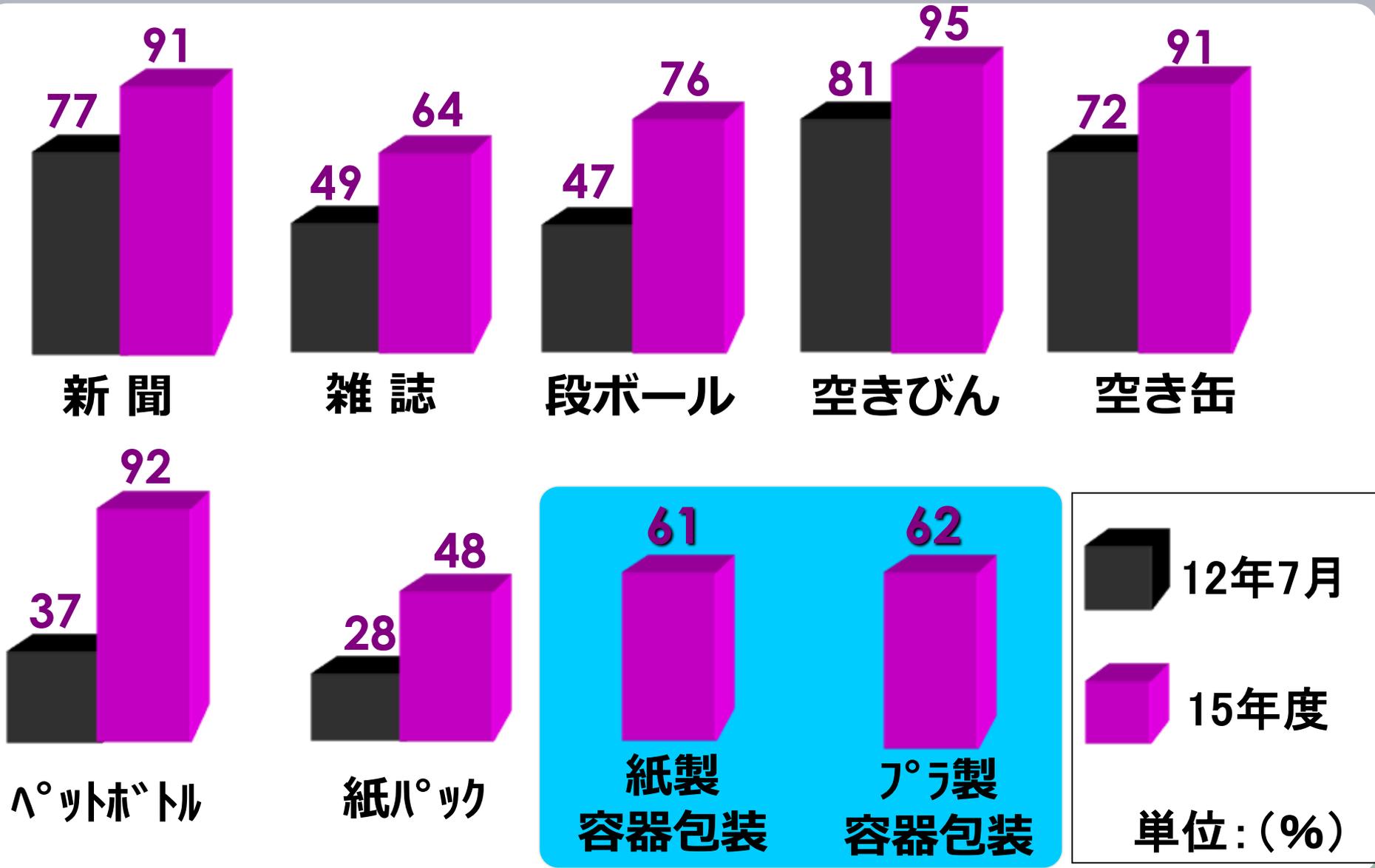
分別・リサイクルに取り組む市民



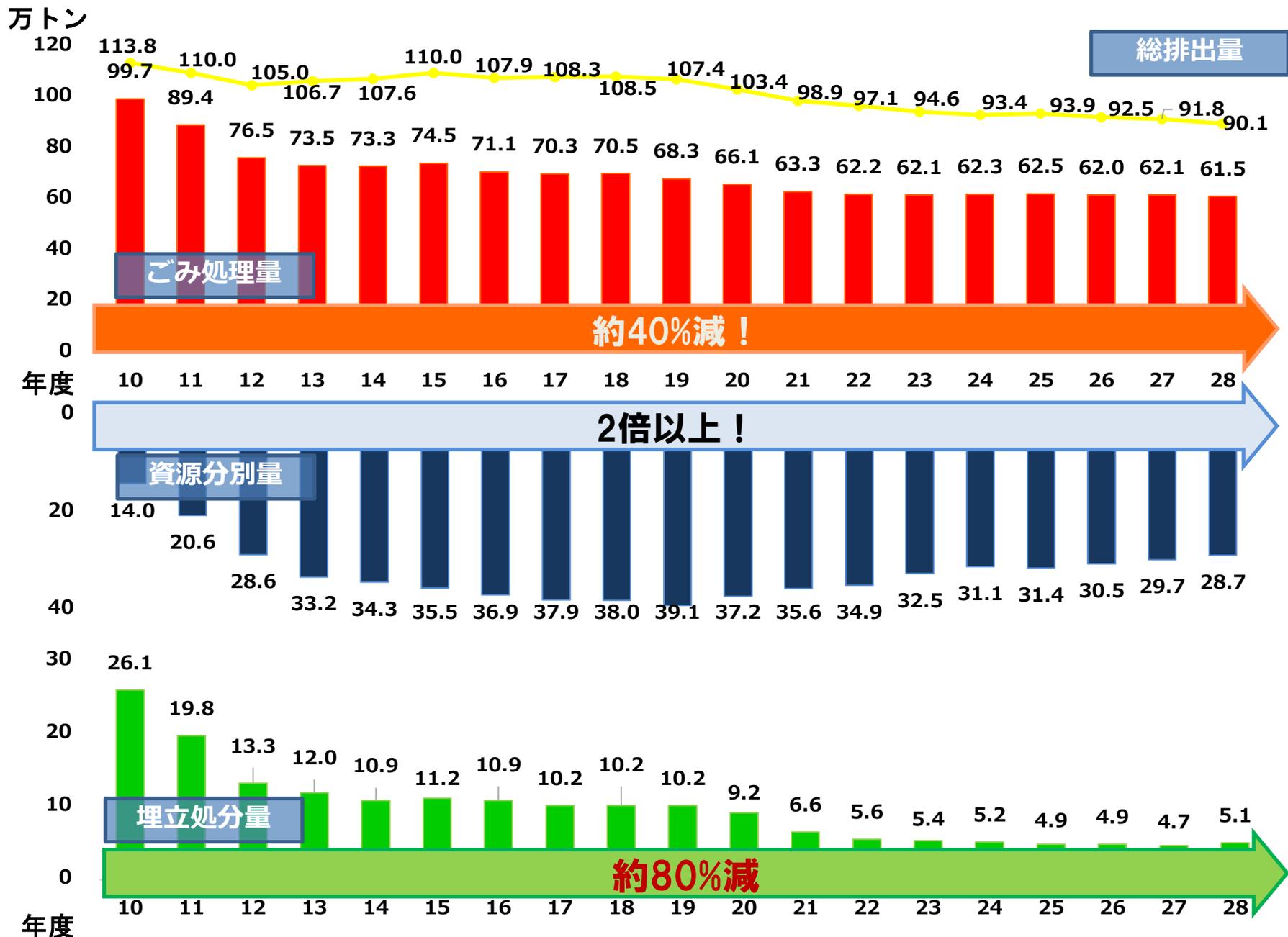
住民・地域役員・NPOの奮闘の様子

家庭系の資源化率

～熱い夏（平成12年8月）を境に、大きく向上～



「ごみ非常事態宣言」後の成果



愛岐処分場の変化

現在



ごみ減量やごみ処理方法の変化により、
焼却灰や溶融後のスラグ(覆土)がほとんど。
埋立量は年間5万トンまで減少。

藤前干潟のラムサール条約登録 (平成14年11月)



採餌するハマシギ

認定証



名古屋市における空きびんのフロー

収集（週1回、拠点回収）

資源化量
14.7千トン

資源化率
94%

選別

ワンウェイびん

14.3千トン

リターナブルびん

0.4千トン

第4次一般廃棄物処理基本計画

なごや循環型社会・しみん提案会議

しみん提案

リユースびんの復活

第4次一般廃棄物
処理基本計画
の策定(20年5月)

リユースびん
プロジェクト

これまでの取り組み

- 環境イベントでの販売・回収社会実験



- シンポジウム
・意見交換会

- びん商・酒造の見学会（バスツアー）



- 東海地域びんリユース推進協議会の設立

第5次一般廃棄物処理基本計画

● 基本方針

平成28年3月策定

1 協働

～3Rの取り組みを支える持続可能な仕組みづくり～

2 2Rの推進

～「もったいない」の心でごみも資源も元から減らす～

3 分別・リサイクルの推進

～ごみも資源も分けて生かす～

4 環境に配慮した施設整備

～将来にわたり持続可能な処理・処分体制を確保する～

基本方針 2 2Rの推進

- 名古屋ルール運動の展開
- リユースの取り組み支援

【リユースびん循環の仕組みづくり】

市民・事業者との協働により、
飲食店を中心としたリユースびん循環
の仕組みづくりの検討を進めます。

今後の方向性と課題

- クローズドシステムによる新たなびんリユースシステムの構築
- 事業の自立化

市民・事業者との協働により 「環境首都なごや」をめざします

ありがとうございました

